

「HANSHIN 健康メッセ2017」活動報告

社会への情報発信委員会

委員長 伊藤智雄

昨年度に引き続き「HANSHIN 健康メッセ2017」が8/25-27に開催され、「社会への情報発信委員会」の重要な活動として情報発信を行いました。この企画は阪神電気鉄道株式会社が安心・安全な地域を作るため、健康に関する情報発信の一環としておこなっているもので、昨年は1万人以上の参加者があり、本年が2回目となっております。実行委員長を神戸大学副学長・理事が勤め、兵庫大学とともに3組織による共催となっております。阪神電気鉄道株式会社様にはかねてより「病理学」の重要性に着目していただいております。病理として様々な企画を出展することができました。メインとなるコーナーは「ミクロの世界」。本年は、最初に「社会への情報発信委員会」メンバーによる「けんびきょうでいろいろかんさつしよう」というミニ授業で、病理とはどのようなところかを子供たちにやさしく教えます。次に実際の供覧用顕微鏡を使用して様々な食物のミクロ画像を観察します。ここでは「オクラ」「イカ」「ブルーチーズ」「しめじ」などの印象的な組織像を供覧し、親子ともども大きな歓声が上がっていました。最後には「病理スケッチコーナー」。下絵に塗り絵をするという趣向で、一生懸命に書き込む子供の姿が印象的でした。行列の場所には、本年作成した市民向け動画を流し、病理に対する理解を深めてもらいました。その他にもiPS細胞の検鏡コーナーなども設けました。大型企画の「体験コーナー」では神戸大学臨床検査技師により、「パラフィンでつくるキャンドル」「液体窒素の実験」を行い、特に後者は会全体でも最も盛り上がるもので、まさに大歓声に包まれておりました。その他にもセミナールームにて「親子でビックリからだのひみつ」の講義も開催いたしました。企画にあたり、委員会からは私の他、榎木先生（近畿大学）、福岡先生（長崎大学）、九嶋先生（滋賀大学）、安井先生（広島大学）、坂東先生（徳島大学）が参加し、情報発信にあたりました。さらに委員会外からも神戸大学医学部附属病院の医師・臨床検査技師、さらには筑後先生（近畿大学）には、完全なボランティアにて支援いただき、講義まで大活躍をしていただきました。本年は、最初から最後まで行列がほぼ途絶えることなく、我々の声もかすれるほどで、子供の歓声に癒されながら、有効な情報発信を行うことができました。おそらく600名以上の親子に講義をしたこととなります。病理への理解を深め、また、ひとりでも医学に興味を持ち、病理に進んでくれる人を増やすためにも、親子への情報発信は極めて重要だと思っております。来年も開催予定となっております、より有効的な情報発信を行ってゆきたいと思っております。



ミクロの世界コーナー



ミニ授業



実際に顕微鏡で、いろいろな食物を観察



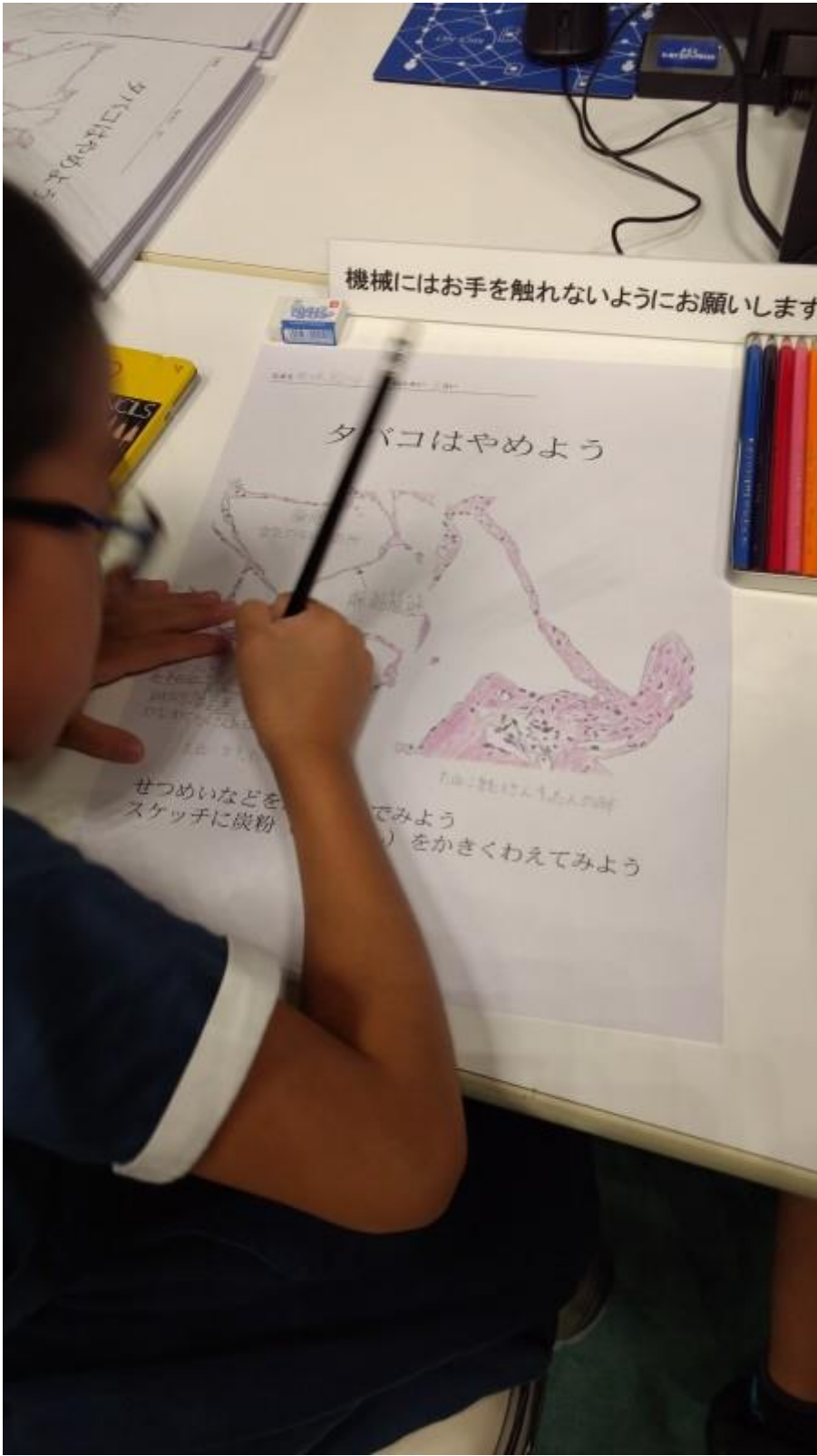
パンフレットも多くの方が手にしていました

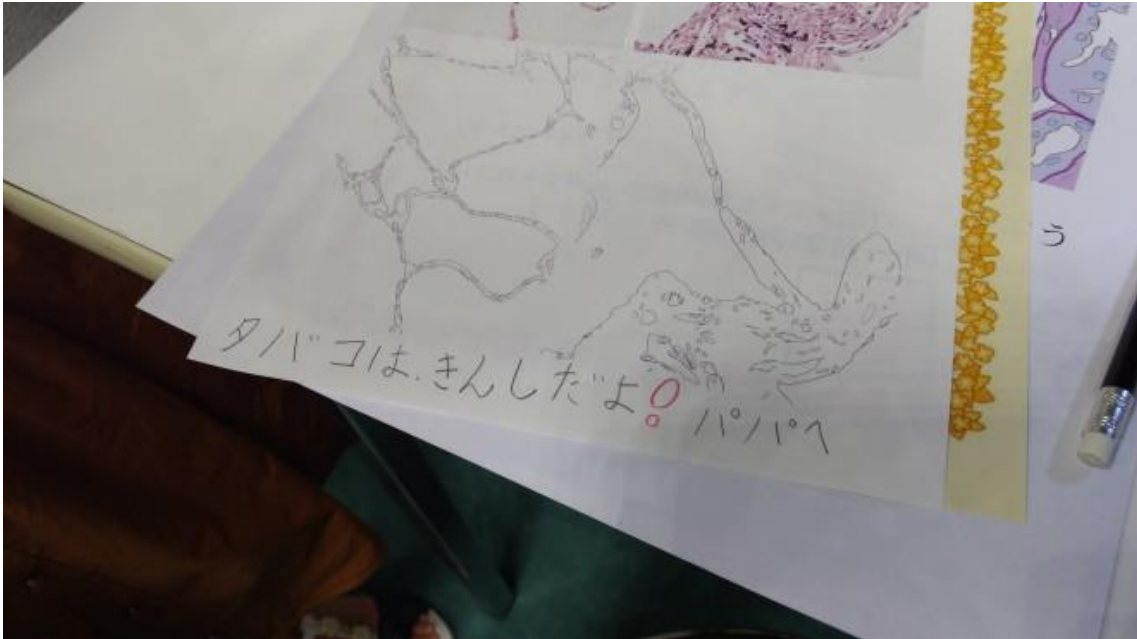


本年作成した動画も大活躍



スケッチコーナー





ほほえましい書き込みも



液体窒素の実験。大歓声



この賑わい全てが病理関係の企画への参加者です。たいへん有効な情報発信ができています。